

2025年度まちづくりネットモニター第1回調査結果 テーマ「第五次食と農の基本計画について」



本市は「農業が盛んで、市民の身近な産業となるまち」を基本理念とし、令和4（2022）年～令和7（2025）年度を計画期間とする「第四次郡山市食と農の基本計画」を策定し、市農業及び農村の振興に取り組んでいます。

現行計画は、今年度末に終期を迎えることから、市民の皆さんの農業や農村に対する意識や意向を把握し、次期計画及び今後の農業施策の基礎資料とさせていただくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。（農業政策課）

【調査結果】

- 調査期間 2025年5月2日(金)～5月11日(日)（10日間）
- モニター数 427名（男性 185名 女性 241名 不明 1名）
- 回答者数 394名（男性 167名 女性 226名 不明 1名）
- 回答率 92.3%

【分析】

《回答者内訳》

(人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	全体
男性	6	4	12	29	39	36	26	15	167
女性	8	8	31	65	62	42	9	1	226
不明		1							1
合計	14	13	43	94	101	78	35	16	394

《第1章 農業との関係性》

- ・農業との関わりについて、全体の65.5%が「農業に関わっていない」と回答。（問1）
- ・収穫体験やグリーンツーリズムの経験について、全体の69.5%が「ない」と回答。（問2）
- ・食料と農業に関する取組みへの関心について、全体の70.1%が「地元農産物を購入する」と回答。（問4）

《第2章 食の産地・地産地消について》

- ・地産地消について、全体の83.8%が「意識している」「ある程度意識している」と回答。（問5）
- ・米類を食べる回数について、全体の66.0%が「変わらない」、27.2%が「減った」と回答。（問6）
- ・6次化商品について、全体の43.7%が「知っている」と回答。（問8）

《第3章 農業の役割と抱えている課題について》

- ・食品価格高騰への対応について、全体の54.1%が「価格が安いものに切り替えた」と回答。（問11）
- ・合理的な価格の設定について、全体の50.8%が「ある程度の価格上昇は受け入れるが、急激な上昇は避けてほしい」と回答。（問12）
- ・日本の農業の課題について、全体の89.1%が「農業従事者の減少・高齢化」と回答。（問15）

《第4章 今後の農業政策について》

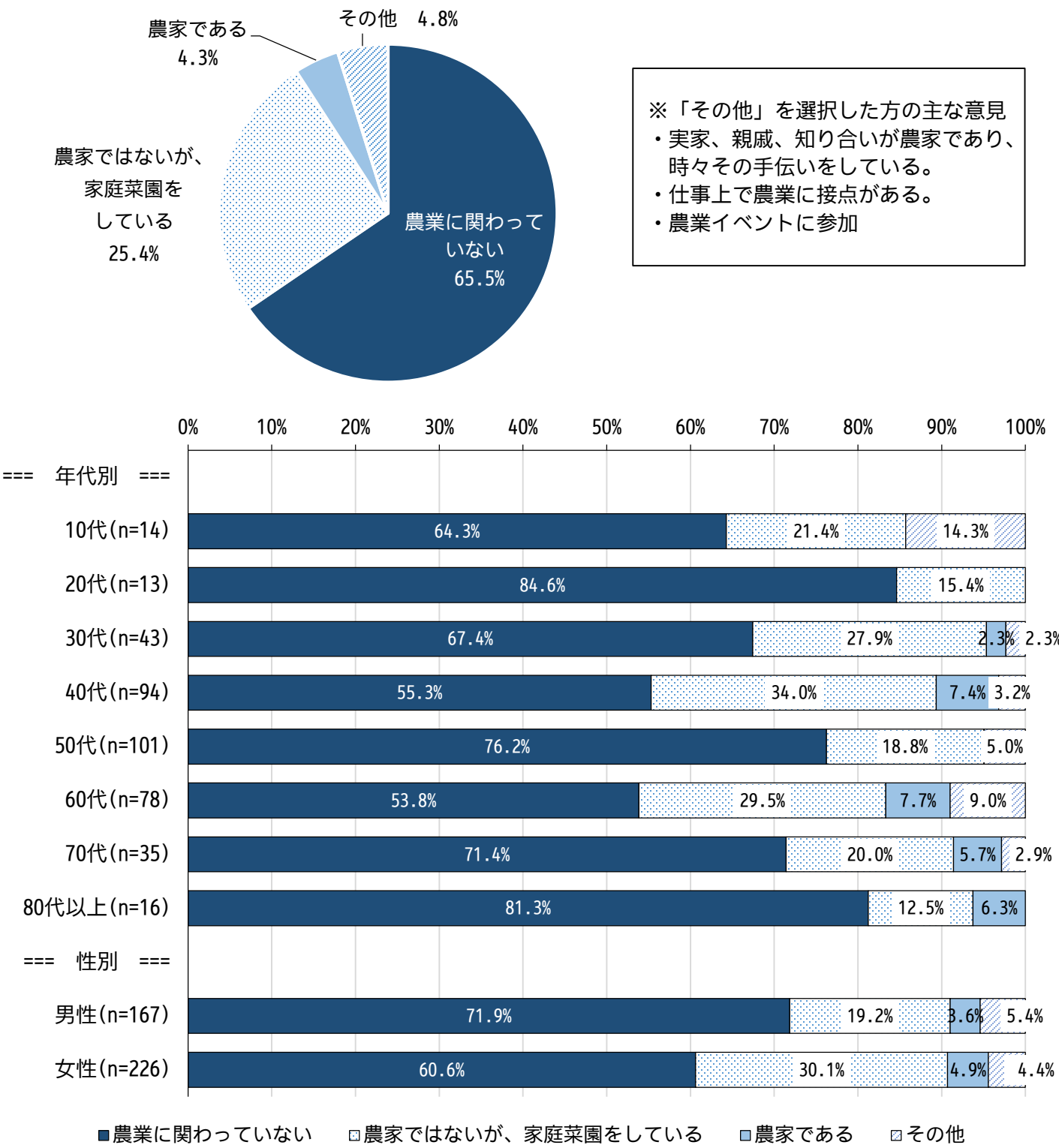
- ・郡山市の農業政策について、全体の62.2%が「担い手の確保」、55.3%が「農業者の収入向上」が重要と回答。（問17）

【考察】

- ・食と農をテーマとした本調査において関心がある項目は、問4、問18のとおり「地元農産物の購入」など食に関するものが多く、食は身近だが、農は馴染みが薄いと推測される。
一方、問1のとおり全体の25%が家庭菜園をしていることや、その他の項目でも農業に関するイベントがあれば参加したいとの声があることから、農業に関する分かり易い情報の提供や農業のマッチングが期待されていると考えられる。
- ・食料品の価格高騰について問12で「ある程度の価格上昇は受け入れる」方が50%以上であるが、家計への負担上昇は厳しいとの意見もあることから、生産現場を正しく理解することなどを通じて食品価格の上昇に納得感がないと価格上昇の受け入れは難しいと推測される。
- ・問15、問17のとおり、担い手の確保が重要だという認識は高く、小さい頃からの農業体験や若者が農業で働く機会の提供、新規就農者の支援が、今後さらに必要と考えられる。

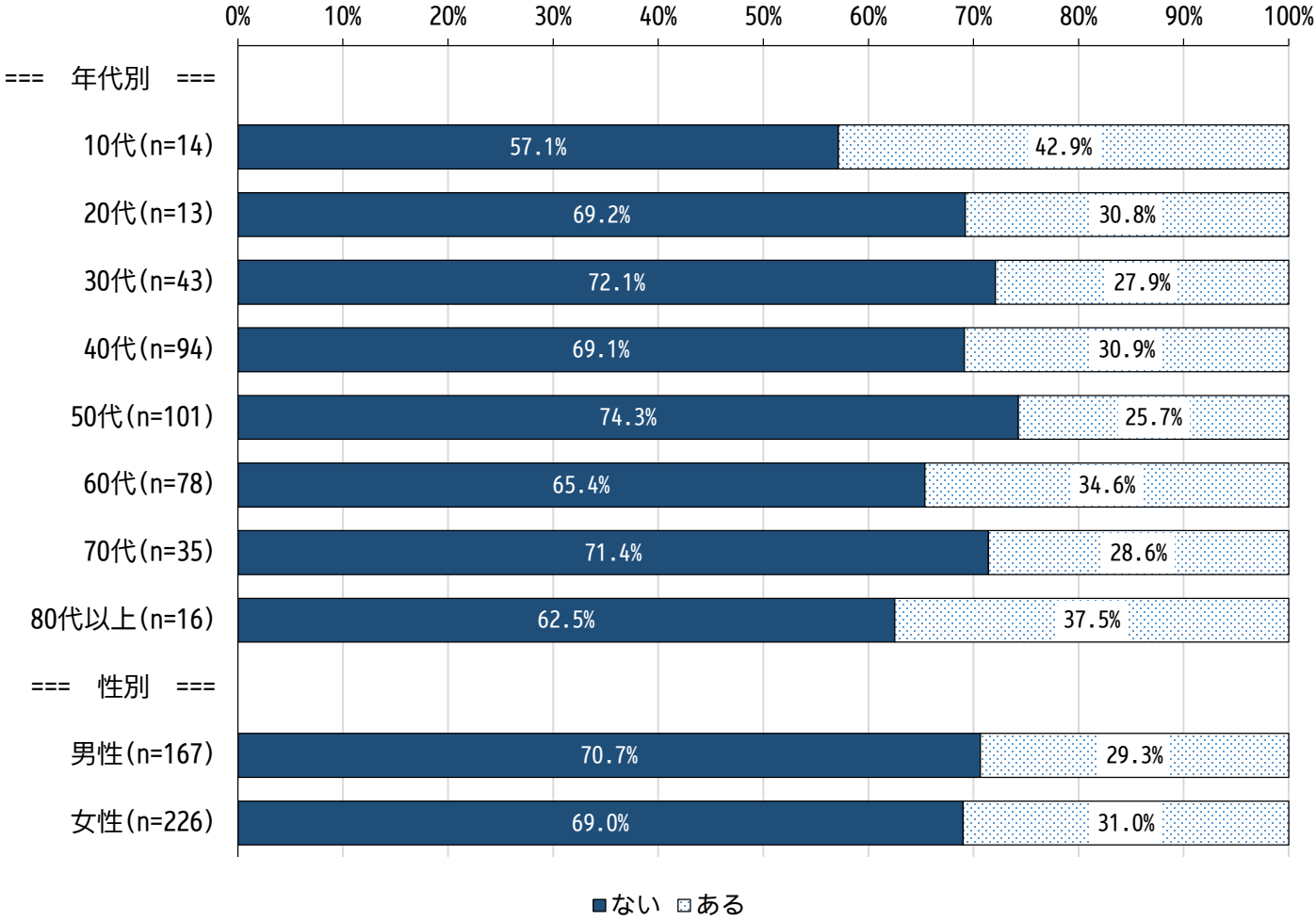
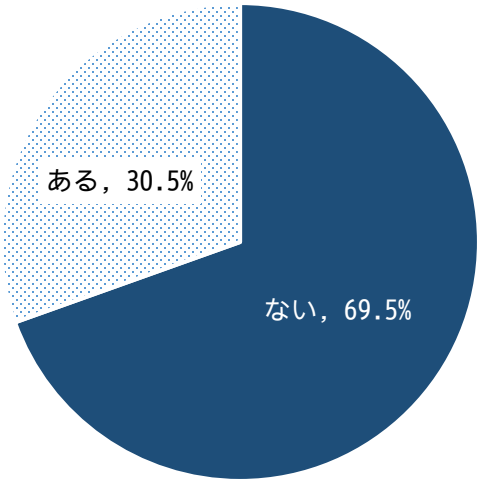
第1章 農業との関係性

問1 あなたはどのくらい農業に関わっていますか？（1つ選択） （回答者：394人）



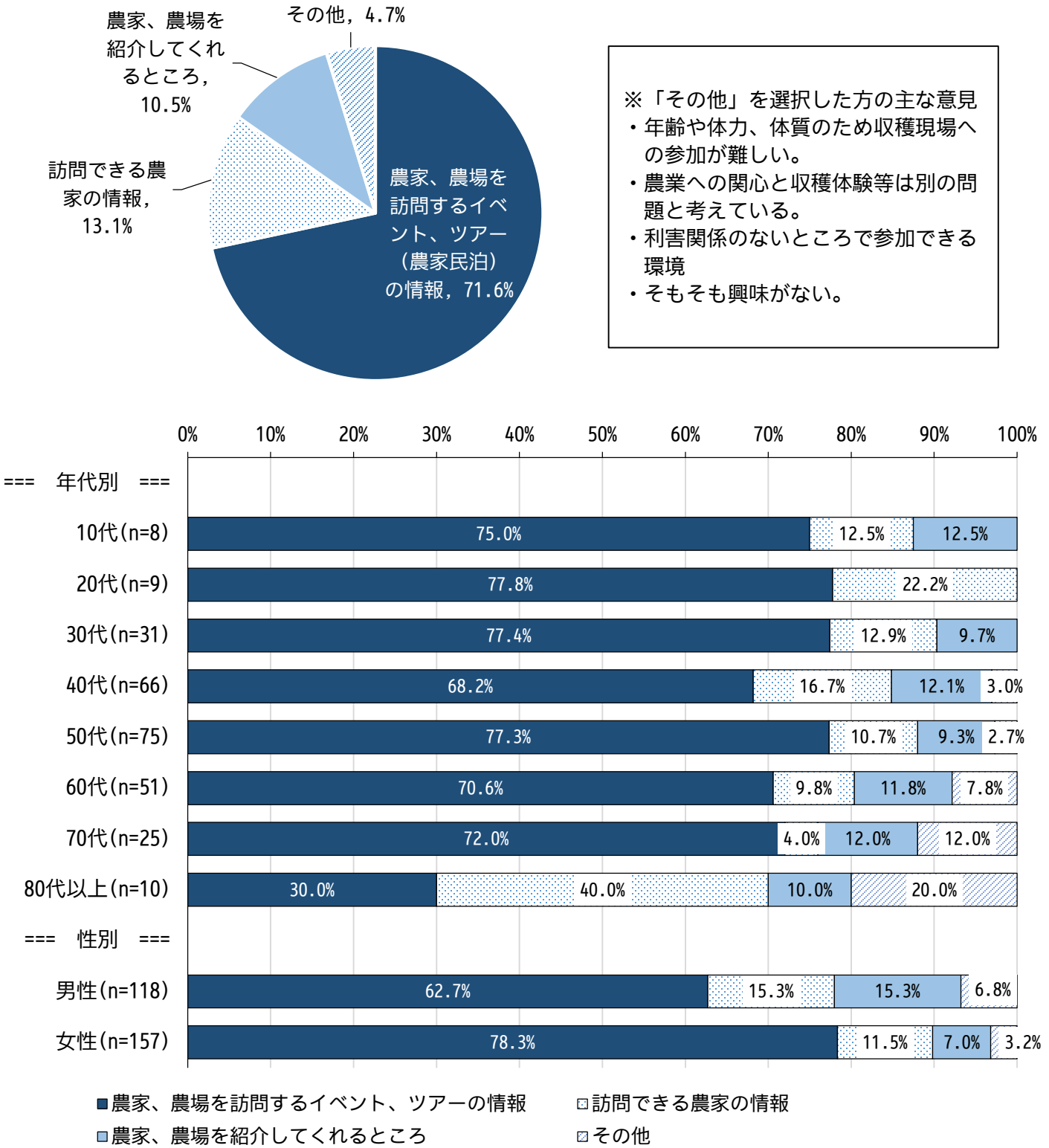
- ①「農業に関わっていない」と回答した方は全体の65.5%であった。
- ②「農家ではないが、家庭菜園をしている」と回答した方は全体の25.4%であり、年代別では30代、40代、60代の割合が多かった。
- 回答者の6割以上が農業と関わりがないため、関わりを増やす機会の提供が必要と考えられる。また、25%以上が家庭菜園をしていることから、家庭菜園をきっかけに農業との関わりを増やしていくことが必要と考えられる。

問 2 今までに野菜・果物などの収穫体験やグリーンツーリズムなどの農林漁業体験を経験したこと
 がありますか？（1つ選択）（回答者：394人）



①収穫体験やグリーンツーリズムなどの農林漁業体験の経験については、全体の69.5%が「ない」と回答した。
②年代や男女に特徴的な傾向はみられなかった。
→どの年代においても3割～4割程度の方が経験はあるものの、未経験の方がこれから参加する場合には、農業にあまり関心がない方が興味を持つような取り組みが必要と考えられる。

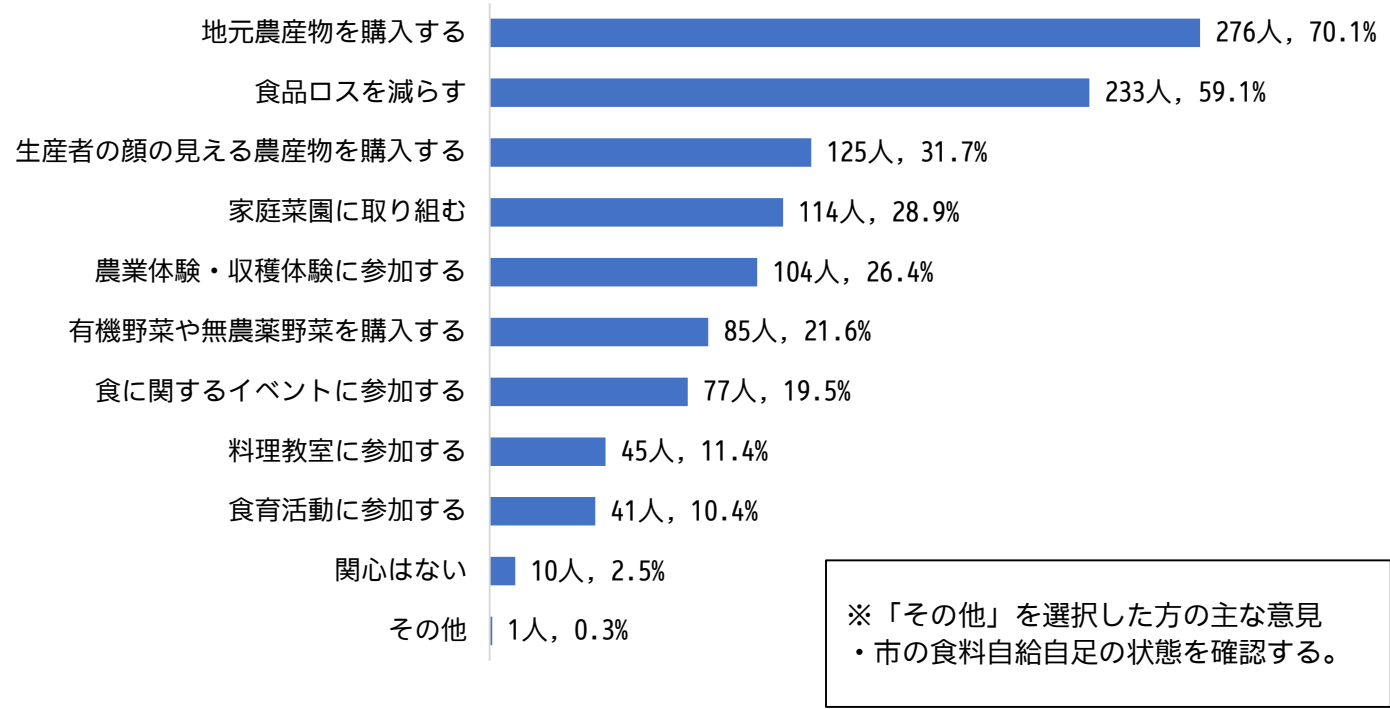
問3 問2で「ない」を選択した方にお伺いします。あなたが収穫体験やグリーンツーリズムに参加するためにはどのようなことが必要ですか？（1つ選択）
（回答者：275人、全体の69.5%）



①「農家、農場を訪問するイベント、ツアー（農家民泊）の情報」と回答した方が71.6%と最も高かった。
②「訪問できる農家の情報」「農家、農場を紹介してくれるところ」は10%～13%程度と低かった。
③その他の回答には「興味がない」「参加したくない」などの意見があった。
→未経験の方が収穫体験やグリーンツーリズムに参加するにあたりそもそもの情報が少ないこと、参加したいと思える内容ではない可能性が考えられるため、参加を促進する場合は、情報発信や内容を工夫する必要があると考えられる。

※複数回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。
したがって、すべての比率を合計すると100.0%を超える場合があります。

問4 食料と農業に関する取組みについて関心があるものはありますか？（3つまで選択可）
(回答者：394人)



【年代別×食料と農業に関する関心】

	地元農産物	食品ロス	生産者の顔	家庭菜園	農業体験	有機野菜	イベント	料理教室	食育活動	関心はない	その他
10代	57.1%	71.4%	7.1%	7.1%	28.6%	7.1%	21.4%	7.1%	28.6%	7.1%	0.0%
20代	69.2%	38.5%	30.8%	0.0%	23.1%	15.4%	46.2%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%
30代	81.4%	48.8%	14.0%	34.9%	32.6%	20.9%	27.9%	16.3%	11.6%	2.3%	0.0%
40代	66.0%	54.3%	25.5%	33.0%	37.2%	23.4%	23.4%	19.1%	16.0%	2.1%	0.0%
50代	66.3%	57.4%	31.7%	28.7%	23.8%	18.8%	16.8%	8.9%	11.9%	3.0%	0.0%
60代	73.1%	65.4%	47.4%	30.8%	21.8%	25.6%	12.8%	6.4%	2.6%	2.6%	1.3%
70代	77.1%	71.4%	34.3%	22.9%	20.0%	22.9%	20.0%	2.9%	2.9%	2.9%	0.0%
80代以上	68.8%	75.0%	56.3%	37.5%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%	6.3%	0.0%	0.0%

60%以上

50%以上

40%以上

①関心があるものについて「地元農産物を購入する」が70.1%、次いで「食品ロスを減らす」が59.1%と高かった。

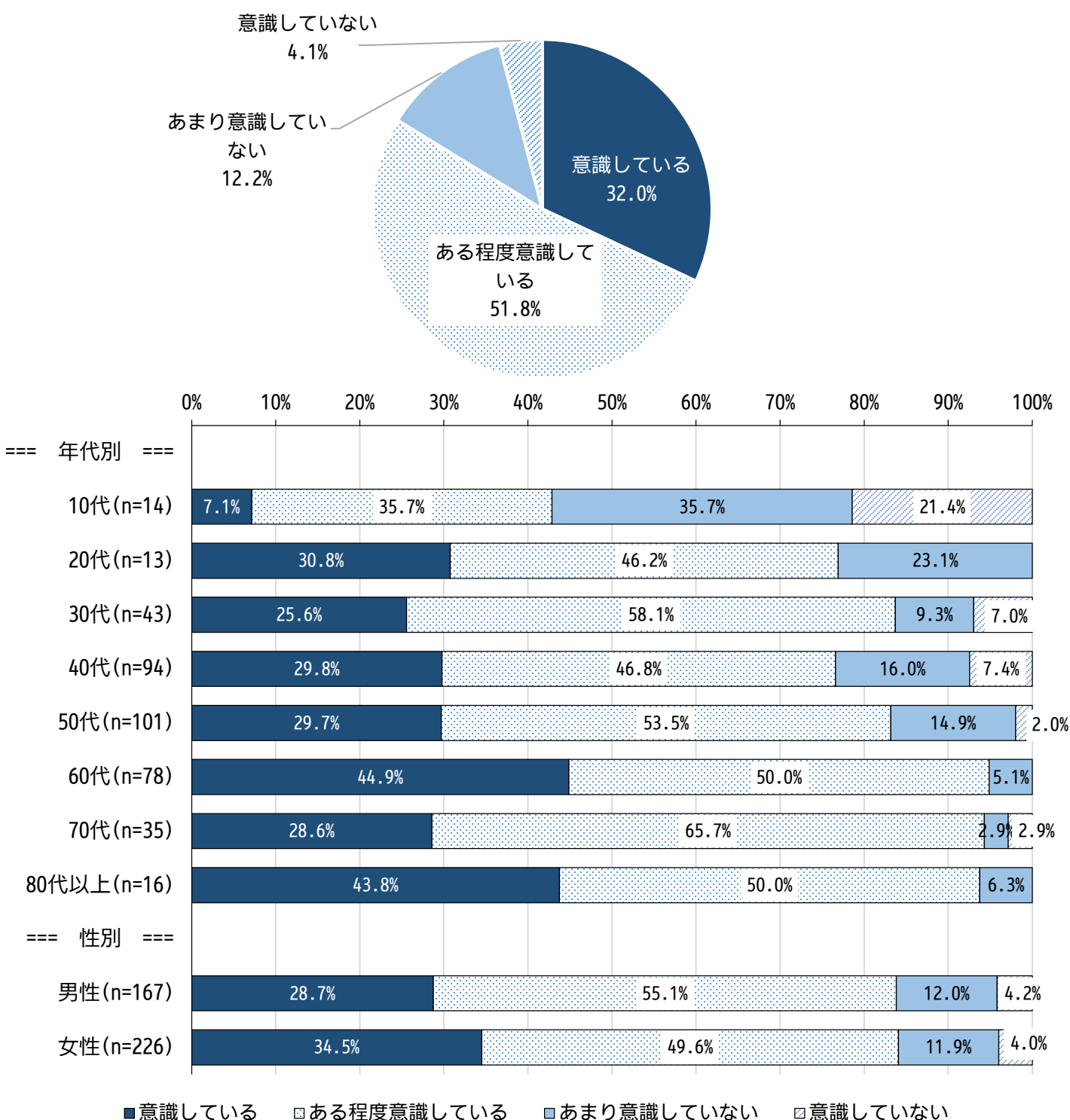
②「生産者の顔の見える農産物を購入する」が60代で47.4%、80代で56.3%とやや高く、「食に関するイベントに参加する」が20代で46.2%と他の年代より高かった。

→地元農産物の購入や食品ロスを減らすなど、普段の食事に関連する項目の関心が高かった。一方で、イベントや料理教室など参加型の項目については、20代で一部関心が高かったものの、全体としては関心が低い傾向がみられたため、地元農産物をきっかけとしつつ、参加型に興味を持てるような方向性の取組が必要と考えられる。

第2章 食の産地・地産地消について

問5 食料品を購入する際に地元商品を購入する地産地消を意識していますか。（1つ選択）

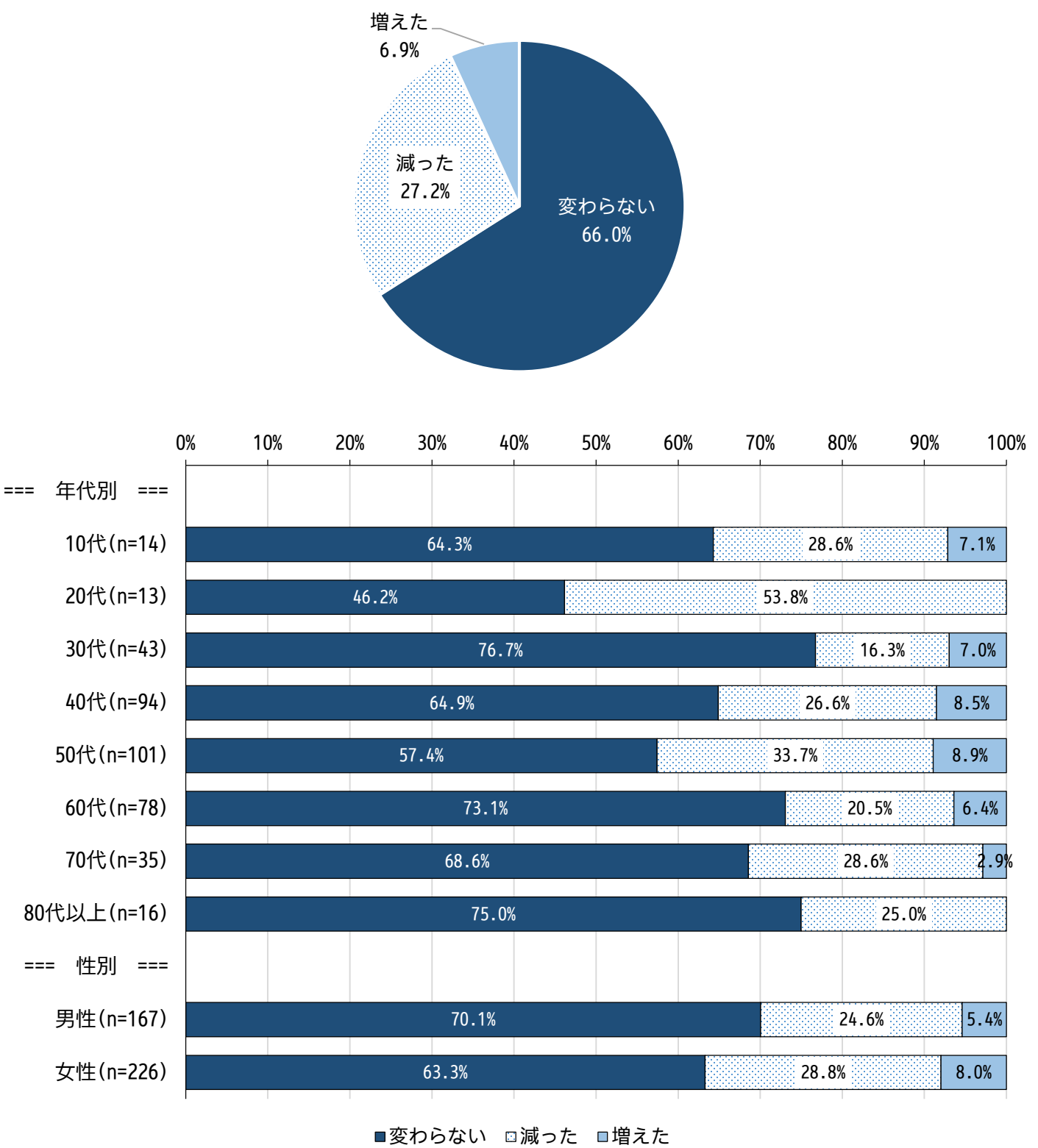
（回答者：394人）



①地産地消について「ある程度意識している」が51.8%、「意識している」が32.0%と8割以上の方が地産地消を意識している傾向がある。

②「あまり意識していない」「意識していない」については、10代が5割以上と多い。

→働き世代は地産地消を意識している方が多いが、10代～20代にも地産地消について伝わるよう周知啓発が必要と考えられる。

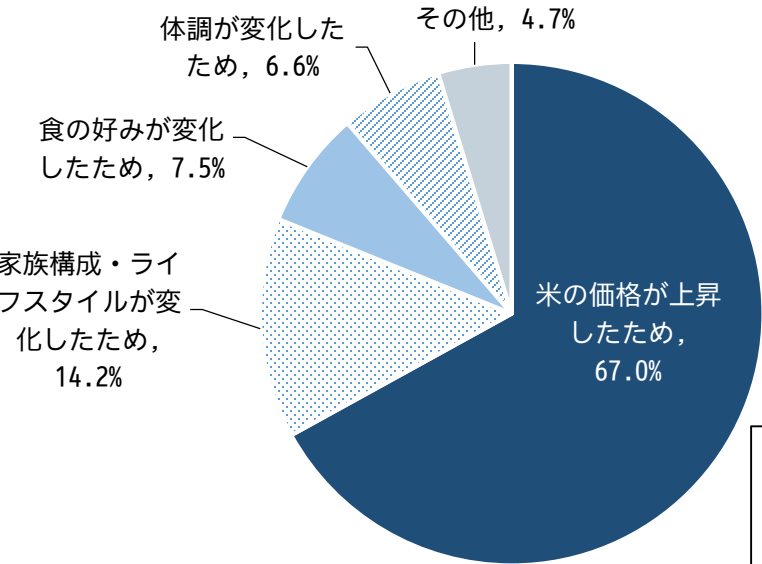


①米類を食べる回数について、「変わらない」方が66.0%と最も高く、次いで、「減った」方が27.2%であった。

②「減った」方は20代の53.8%が最も高く、次いで50代が33.7%と高かった。

→全体の6割以上は米類を食べる頻度に変わりがないが、20代を中心に米類の消費が減少している傾向があり、米消費の減少についての実態把握が必要と考えられる。

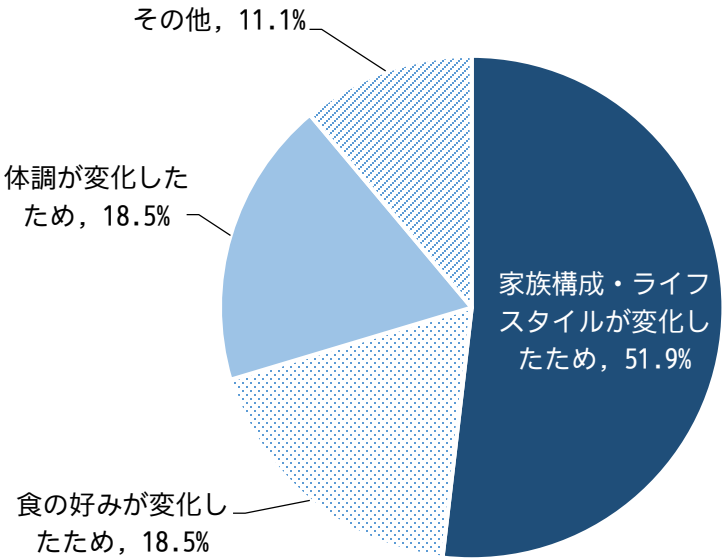
米類を食べる回数が減った方（106人、全体の27.2％）の内訳



※減った方の「その他」を選択した主な意見

- ・健康のため麦などの雑穀を加えることが多い。
- ・食卓に出すまでに時間を要するため。
- ・医師指示による糖質制限を伴う減量
- ・米を扱う関係者への不信感
- ・年齢のため。

米類を食べる回数が増えた方（27人、全体の6.9％）の内訳



※増えた方の「その他」を選択した主な意見

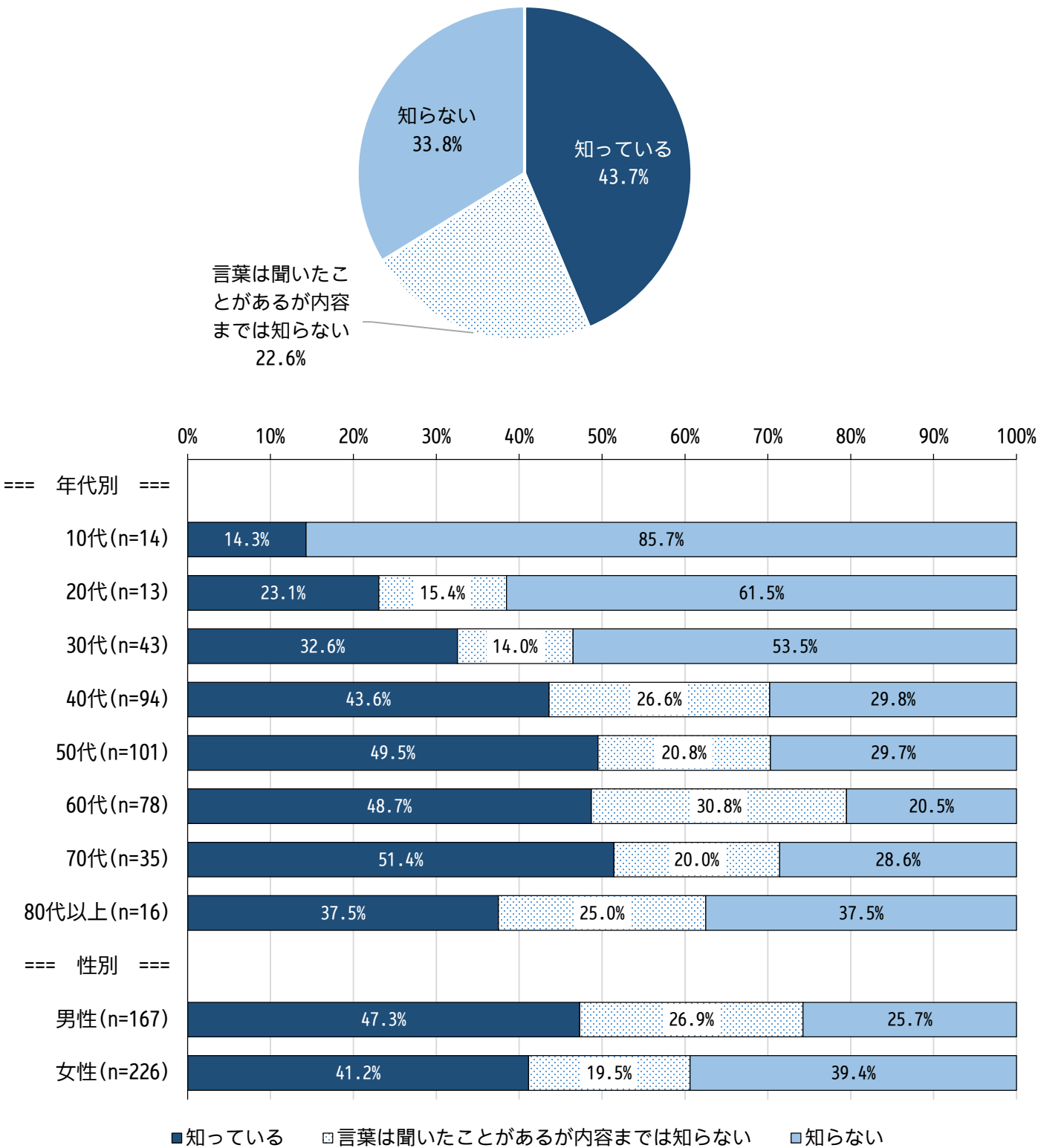
- ・玄米主体の食生活にしたため。
- ・郡山市で買えるお米が美味しいから。
- ・グルテンフリーを心がけているため。

①「減った」方の理由について「米の価格が上昇したため」が67.0%で最も高く、次いで「家族構成・ライフスタイルが変化したため」が14.2%と高かった。

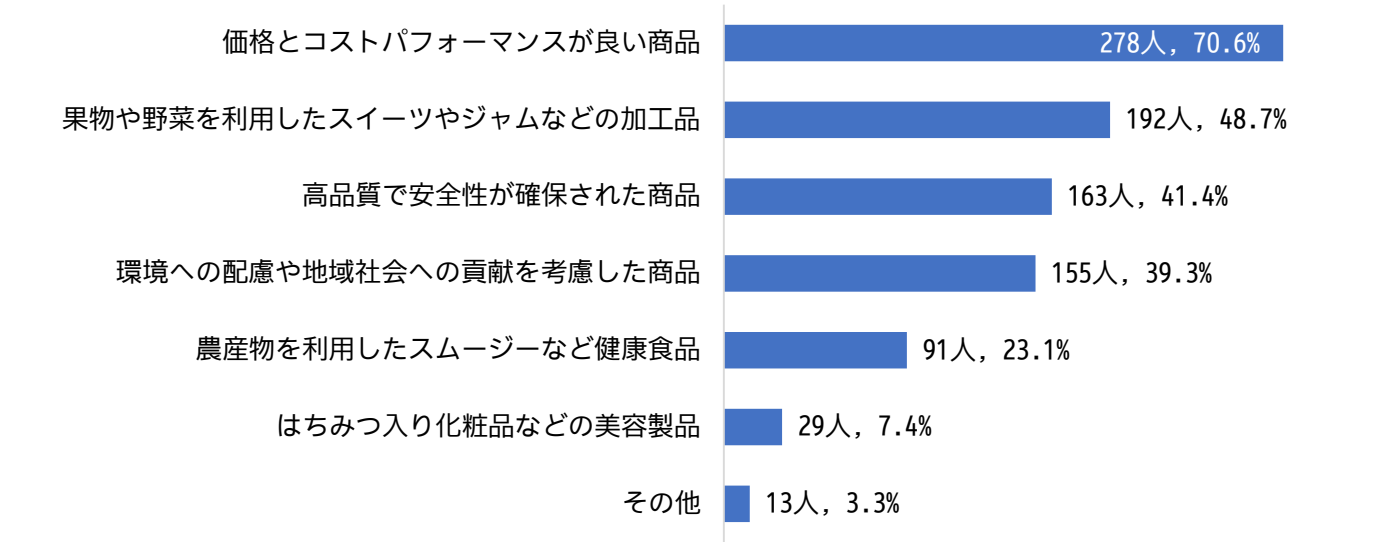
②「増えた」方の理由については「家族構成・ライフスタイルが変化したため」が51.9%と最も高く、次いで「食の好みが変わったため」が高かった。

→米の消費には価格が特に影響すると考えられるが、ライフスタイルや栄養、健康に対する考え方も影響があると思われ、米の消費行動について複数の要因を把握する必要があると考えられる。

問 8 6 次化商品をご存知ですか。以下の説明をお読みになりお答えください。（1 つ選択）
※ 6 次化：農家の方が自らの農産物を利用し、加工開発・販売を行うこと。（回答者：394 人）



① 「知らない」と回答した方が10代で85.7%、20代で61.5%、30代で53.5%の順に高い。
② 「知っている」と回答した方は、40代以上で4割程度と高いが、「聞いたことがあるが内容まで知らない」方も2割以上いる。
→ 6次化商品の認知度は若い世代で低い傾向があり、40代以上でも「内容は知らない」方が一定数いることから、今後6次化を促進する場合、若い世代が認知しやすい情報の発信や6次化商品に関心を持てるような販売促進などが考えられる。



【年代別×6次化商品開発への期待】

	価格とコストパ	スイーツやジャム	高品質、安全	環境配慮	健康食品	美容製品	その他
10代	42.9%	71.4%	28.6%	21.4%	35.7%	14.3%	0.0%
20代	53.8%	46.2%	46.2%	46.2%	15.4%	23.1%	0.0%
30代	67.4%	55.8%	46.5%	16.3%	25.6%	11.6%	4.7%
40代	74.5%	52.1%	36.2%	34.0%	25.5%	8.5%	1.1%
50代	76.2%	51.5%	41.6%	36.6%	20.8%	5.0%	3.0%
60代	67.9%	44.9%	51.3%	55.1%	15.4%	2.6%	6.4%
70代	68.6%	34.3%	31.4%	57.1%	31.4%	5.7%	5.7%
80代以上	75.0%	25.0%	37.5%	43.8%	31.3%	12.5%	0.0%

70%以上

60%以上

50%以上

※「その他」を選択した方の主な内容

- ・地域野菜や山菜を使ったお漬物や水煮などの加工品
- ・梅干しや漬物
- ・健康食（例えば、入院食のように体調に合わせて食べる料理）
- ・乾燥野菜
- ・企画や生産は農家が行うが、販売、宣伝まですべて農家に任せない完全6次化でない商品
- ・食品廃棄減少のための商品・他地域との差別化を図った商品
- ・郡山市の特産になるもの（例：会津若松市における身しらず柿、伊達市におけるあんぼ柿、福島市における桃のようなもの）
- ・必要性が分からない

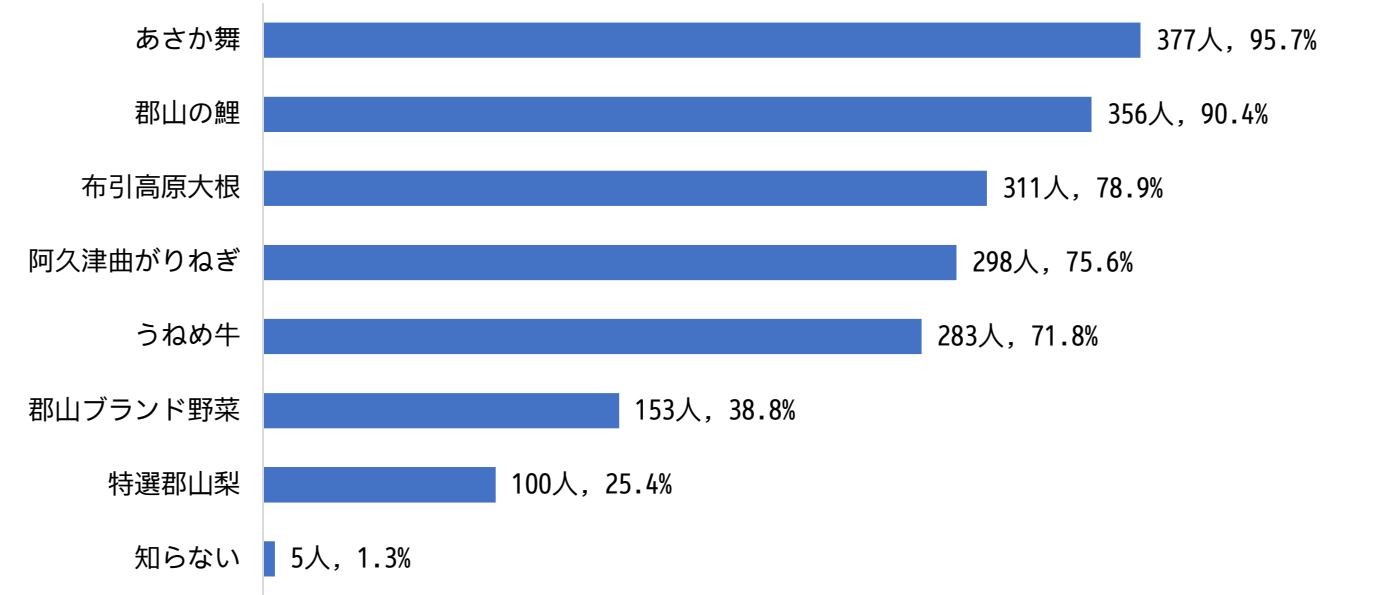
① 6次化商品開発に期待することとして「価格とコストパフォーマンスが良い商品」が70.6%と最も高い。

② 年代ごとにみると「果物や野菜を利用したスイーツやジャムなどの加工品」について、10代を中心に若い世代の期待度が高い。

③ 「環境へ配慮や地域社会への貢献を考慮した商品」が60代以上の年代で期待度が高い。

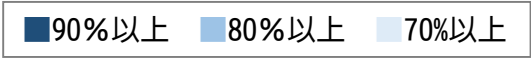
→全体を通してコストパフォーマンスが良い商品が期待されているが、若い世代はスイーツやジャムへの期待、60代以上の世代では地域社会への貢献度などを期待しており、年代に応じた商品開発を検討する必要がある。

問10 郡山市の特産品（農林水産物）の中で知っているものを選択してください。（複数選択可）
（回答者：394人）



【年代別×郡山市の特産品の認知度】

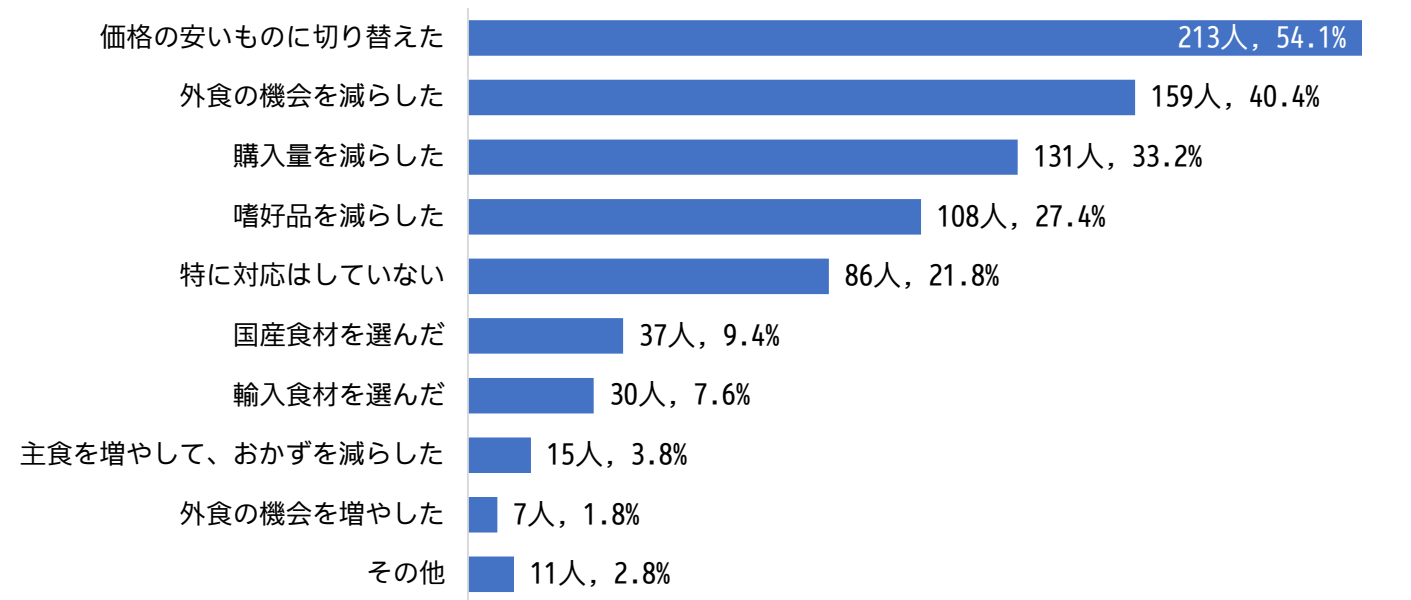
	あさか舞	郡山の鯉	布引高原大根	阿久津曲がりねぎ	うねめ牛	郡山ブランド野菜	特選郡山梨	知らない
10代	50.0%	50.0%	7.1%	42.9%	35.7%	21.4%	0.0%	14.3%
20代	84.6%	69.2%	53.8%	46.2%	61.5%	38.5%	15.4%	7.7%
30代	97.7%	97.7%	72.1%	60.5%	72.1%	27.9%	18.6%	0.0%
40代	95.7%	88.3%	76.6%	70.2%	76.6%	31.9%	22.3%	0.0%
50代	99.0%	95.0%	83.2%	78.2%	81.2%	48.5%	24.8%	0.0%
60代	98.7%	92.3%	92.3%	91.0%	74.4%	48.7%	35.9%	1.3%
70代	97.1%	91.4%	82.9%	85.7%	54.3%	34.3%	31.4%	2.9%
80代以上	100.0%	93.8%	93.8%	87.5%	50.0%	25.0%	31.3%	0.0%



- ①「あさか舞」、「郡山の鯉」の認知度が9割以上と高い。
- ②10代の「布引高原大根」の認知度7.1%を除いて、年代と特産品の種類ごとの認知度の差はほとんどない。
- 近年の「あさか舞」、「郡山の鯉」の周知の取組みが認知度に影響があったと考えられる。特産品として昔から周知している物が必ずしも認知度が高い訳ではなく、定期的なPR活動等の取組みが認知度向上には重要と考えられる。

第3章 農業の役割と抱えている課題について

問11 ここ2年ほど食品価格が高騰していますが、ご自身の食生活においてあなたはどのように対応しましたか。（3つまで選択可）
 （回答者：394人）



【年代別×食品価格高騰への対応】

	価格の安い物へ	外食減	購入減	嗜好品減	対応なし	国産食材増	輸入食材増	主食増・おかず減	外食増	その他
10代	50.0%	42.9%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%
20代	38.5%	23.1%	46.2%	23.1%	23.1%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%
30代	48.8%	41.9%	32.6%	34.9%	18.6%	7.0%	11.6%	4.7%	4.7%	2.3%
40代	53.2%	48.9%	27.7%	24.5%	23.4%	5.3%	6.4%	1.1%	0.0%	1.1%
50代	53.5%	34.7%	33.7%	28.7%	19.8%	10.9%	7.9%	5.9%	1.0%	5.9%
60代	62.8%	42.3%	35.9%	24.4%	17.9%	16.7%	9.0%	3.8%	1.3%	3.8%
70代	51.4%	40.0%	48.6%	37.1%	25.7%	8.6%	0.0%	2.9%	2.9%	0.0%
80代以上	56.3%	25.0%	25.0%	12.5%	37.5%	6.3%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%

50%以上
 40%以上
 30%以上

※「その他」を選択した方の主な内容

- ・贅沢品や必要なものはふるさと納税を利用している。
- ・余らない使い切れる量を買うようになった。
- ・販売店で見切りとなる食品を購入している。
- ・家庭菜園をして野菜を作った。
- ・季節の食材や規格外商品の購入。
- ・安く新鮮な地元野菜をよく購入している。
- ・チラシなどをチェックしてお得に購入する機会に食材を購入している。
- ・食品価格は高騰しても、娯楽費を減らして質の良い商品を選んでる。

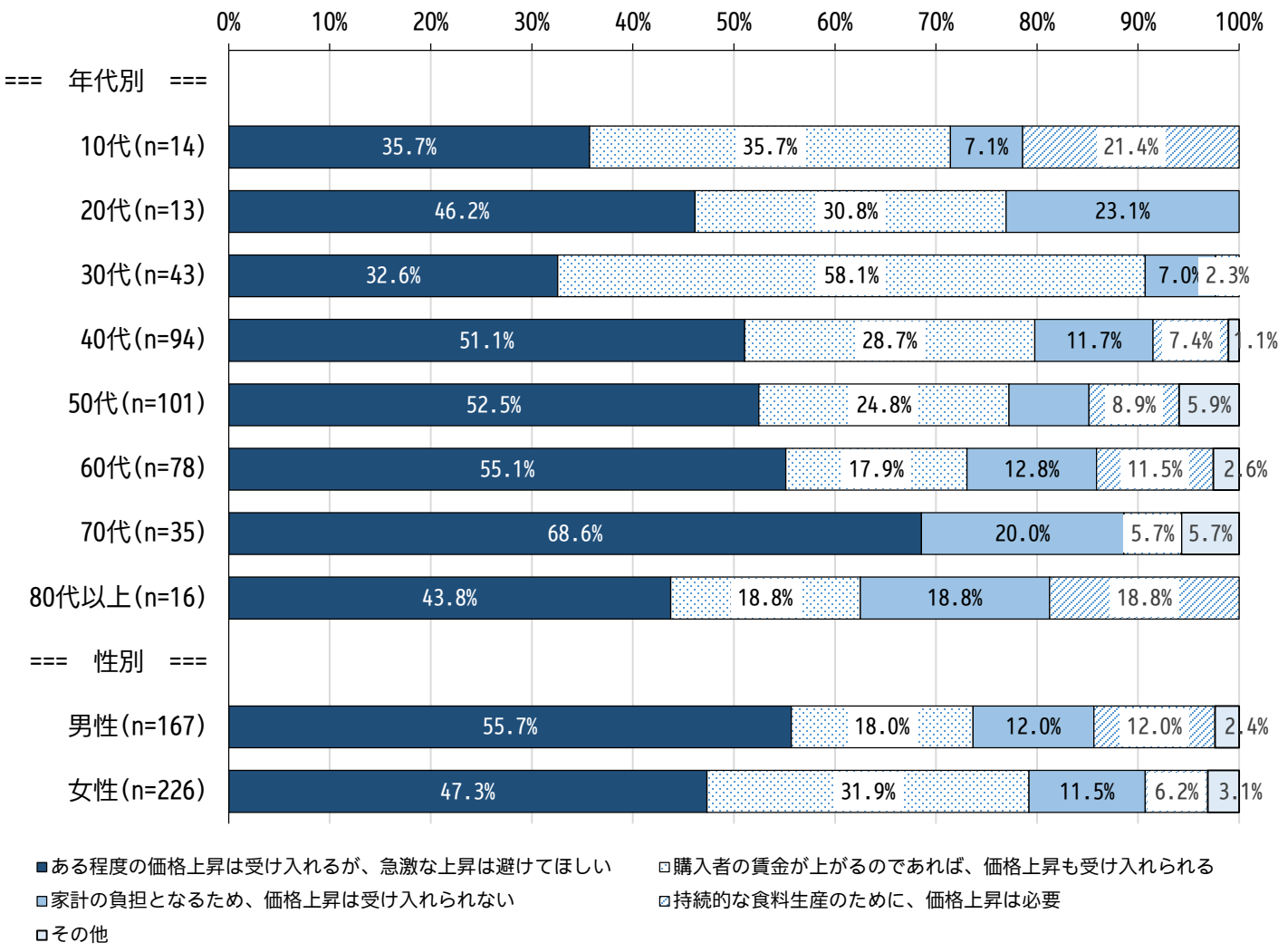
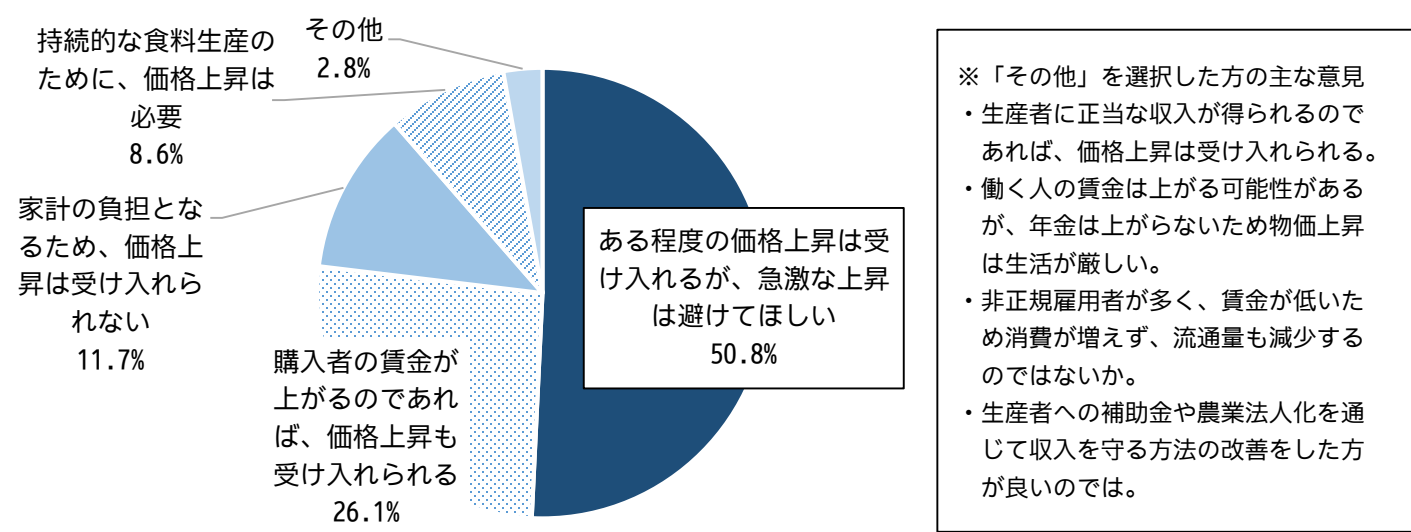
①「価格の安いものに切り替えた」方が最も高く54.1%、次いで「外食の機会を減らした」方が40.4%、「購入量を減らした」方が33.2%と高かった。

②「特に対応していない」方も21.8%いた。

→食品価格の高騰に対し購入品の価格を下げる方が多いが、一方で地元の野菜など安くても質の良いものを選ぶよう心掛けている方も少なからずいるため、価格だけではない視点を施策にとり入れる必要性が考えられる。

問12 現在、国では生産コストを考慮した合理的な価格の設定が検討されているところです。農産物の価格設定について、どう考えますか（1つ選択）

(回答者：394人)



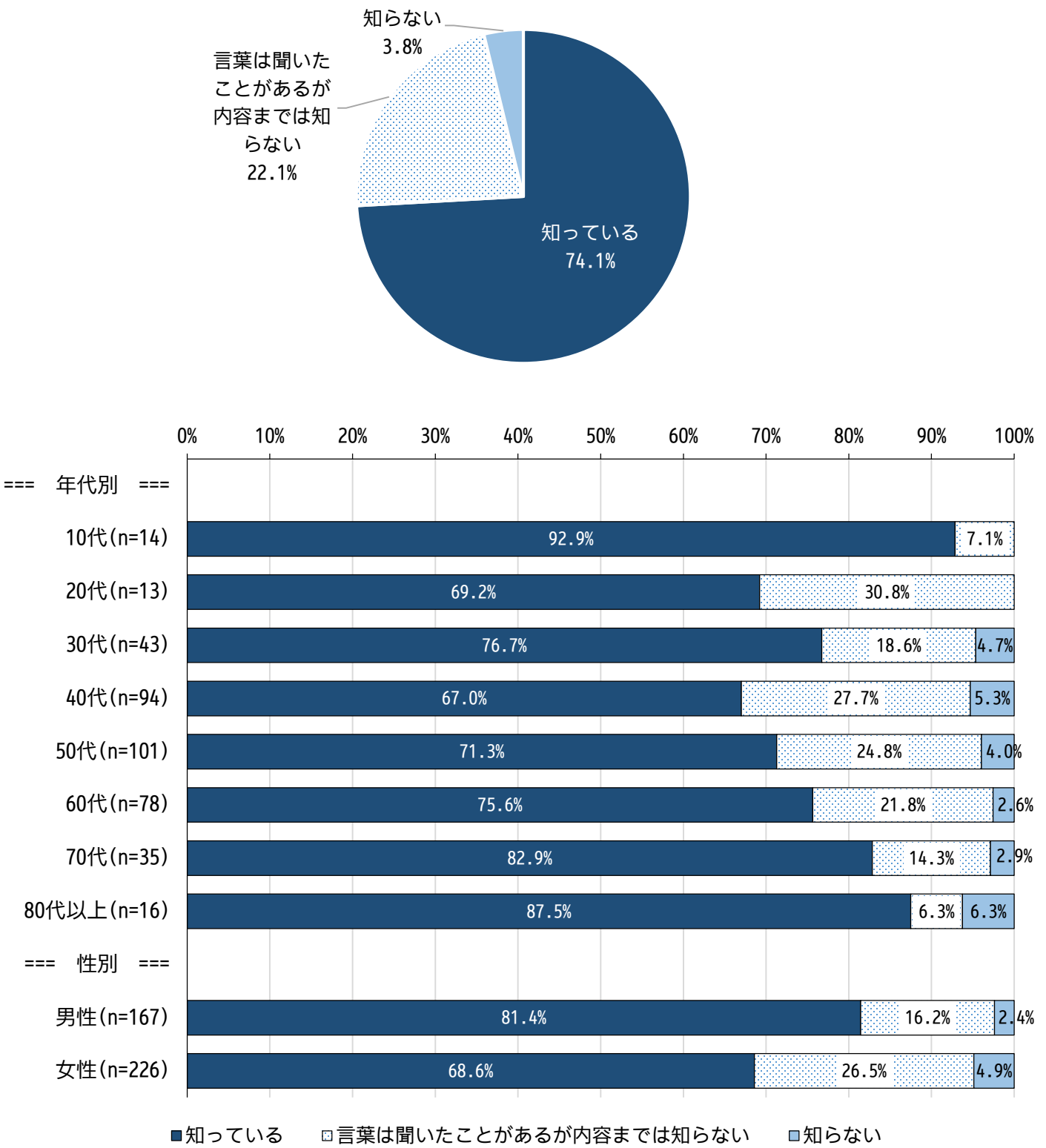
①「ある程度の価格上昇は受け入れられるが、急激な上昇は避けてほしい」方が50.8%と最も高い。

②「家計の負担となるため、価格上昇は受け入れられない」方は、20代、70代、80代で割合が高い。

③「購入者の賃金が上がるのであれば、価格上昇も受け入れられる」方は30代の働き世代が高い。

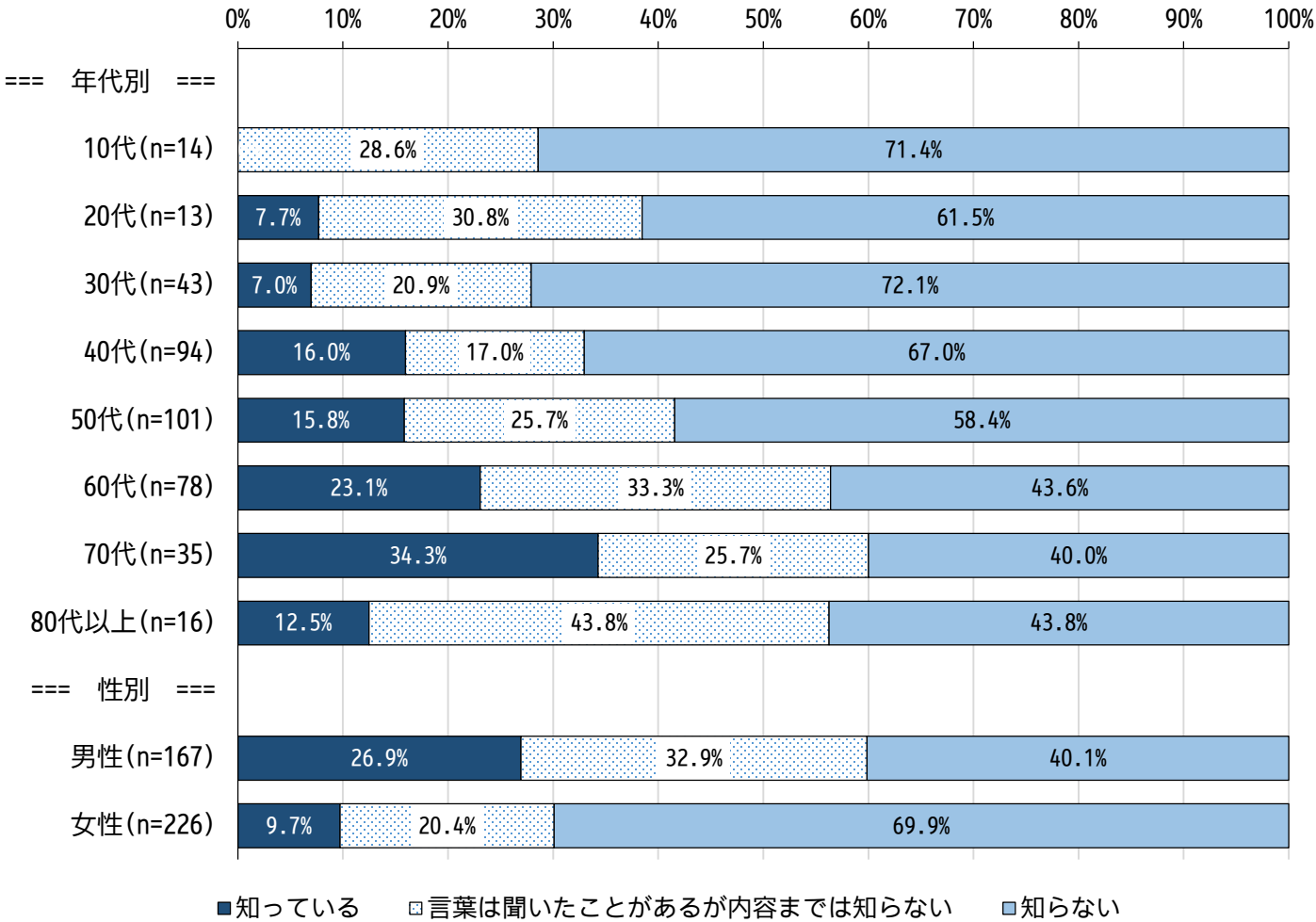
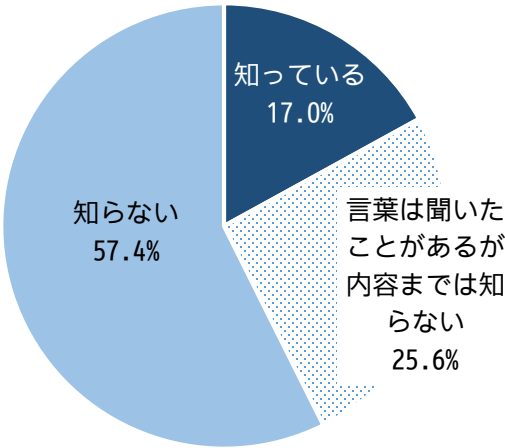
→若年世代や年金世代の方は生活への影響が大きく受け入れられないが、一方、働き世代は賃金が増えれば受け入れられるという傾向がある。年代やライフスタイルにより、適正な価格が異なる可能性があり、購入する農産物を選択できる環境が求められていると考えられる。

問13 「食料自給率」をご存知ですか。以下の説明をお読みになりお答えください。（1つ選択）
※食料自給率とは、国内で消費されている食料がどのくらい国内生産でまかなわれているかを示す指標です。
(回答者：394人)



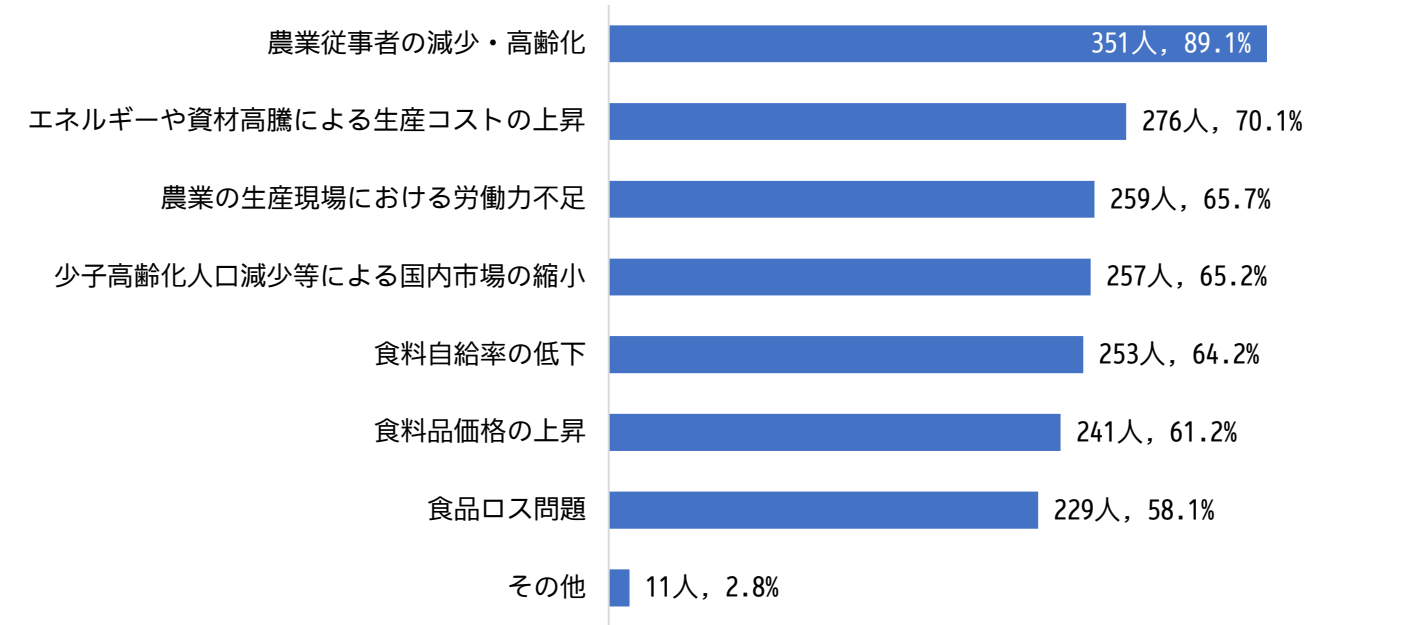
①食料自給率について、全体の74.1%が「知っている」と回答しており全世代で認知度が高い。
②年代別だと「知っている」方は10代が92.9%と最も高く、10代及び20代で「知らない」と回答した方は0であった。
→若年層で認知度が高いのは、学校教育で取り上げられていることが影響している可能性がある。日本の食料自給率の課題については、全世代に共有しやすい内容であると考えられる。

問14 「農業・農村の多面的機能」をご存知ですか。以下の説明をお読みになりお答えください。
 (1つ選択)
 ※農業・農村の多面的機能とは食料生産だけではなく、洪水防止、自然環境の保全、良好な景観の形成などの機能のこと。
 (回答者：394人)



①「農業・農村の多面的機能」について、全体の57.4%が「知らない」と回答した。
 ②年代別で比較すると「知っている」方は、80代以上を除き年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。
 →「農業・農村の多面的機能」の認知度を上げるためには、若年世代を中心に周知を図る必要があると考えられる。

問15 現在の日本の農業の課題として、あなたが知っているものを以下からすべてお答えください。
(複数選択可) (回答者：394人)



【年代別×日本の農業の課題の認知度】

	農業従事者 減少・高齢化	生産コスト 上昇	労働力不足	国内市場の 縮小	食料自給率の 低下	食料品価格の 上昇	食品ロス	その他
10代	71.4%	42.9%	35.7%	42.9%	57.1%	35.7%	50.0%	0.0%
20代	76.9%	53.8%	76.9%	69.2%	61.5%	61.5%	69.2%	0.0%
30代	88.4%	60.5%	48.8%	69.8%	69.8%	72.1%	72.1%	0.0%
40代	89.4%	68.1%	62.8%	57.4%	55.3%	55.3%	51.1%	0.0%
50代	91.1%	78.2%	72.3%	65.3%	64.4%	65.3%	54.5%	3.0%
60代	89.7%	71.8%	70.5%	75.6%	73.1%	57.7%	64.1%	6.4%
70代	91.4%	77.1%	62.9%	68.6%	65.7%	77.1%	60.0%	5.7%
80代以上	93.8%	68.8%	87.5%	56.3%	62.5%	43.8%	50.0%	6.3%

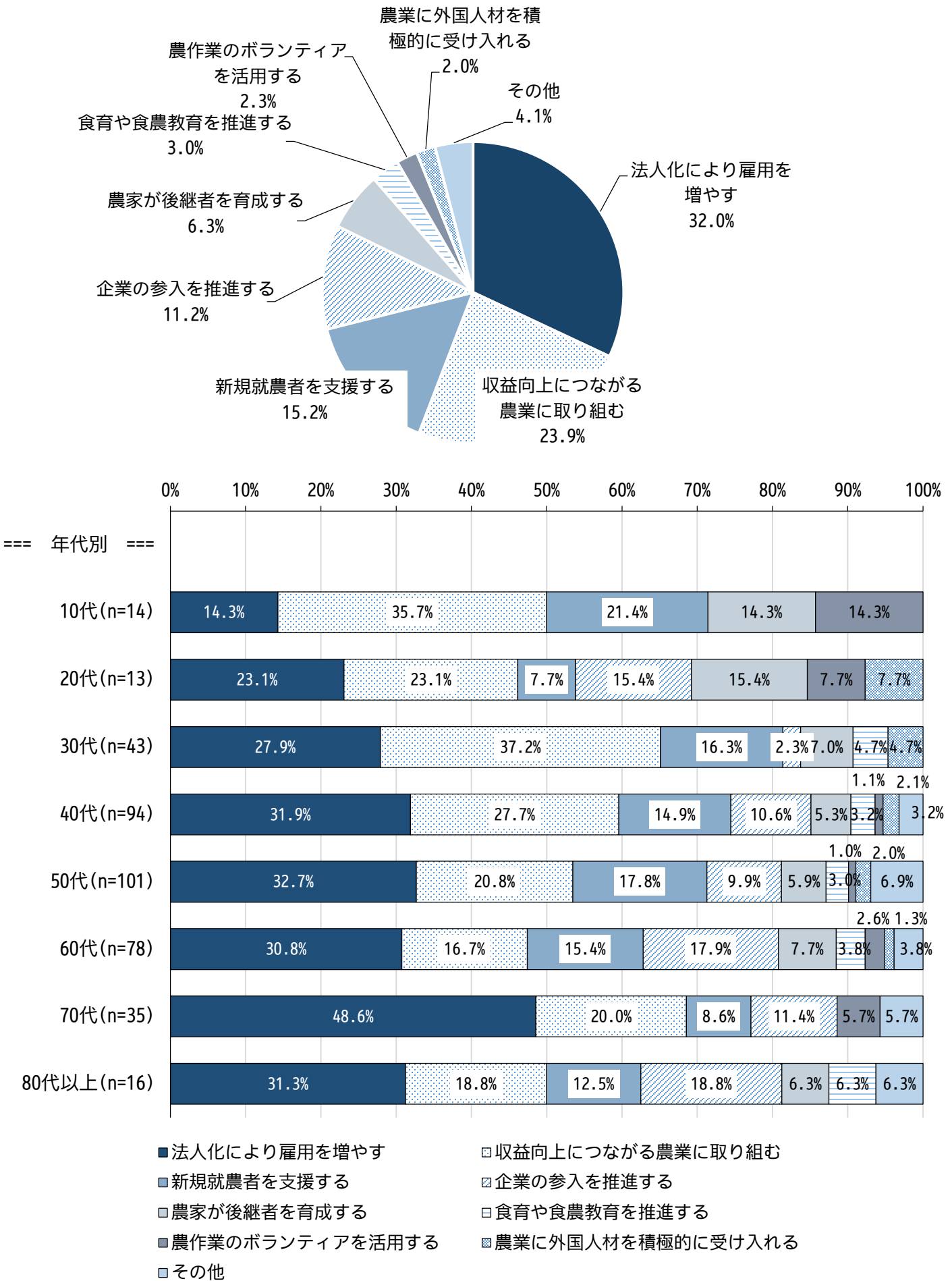
70%以上 60%以上

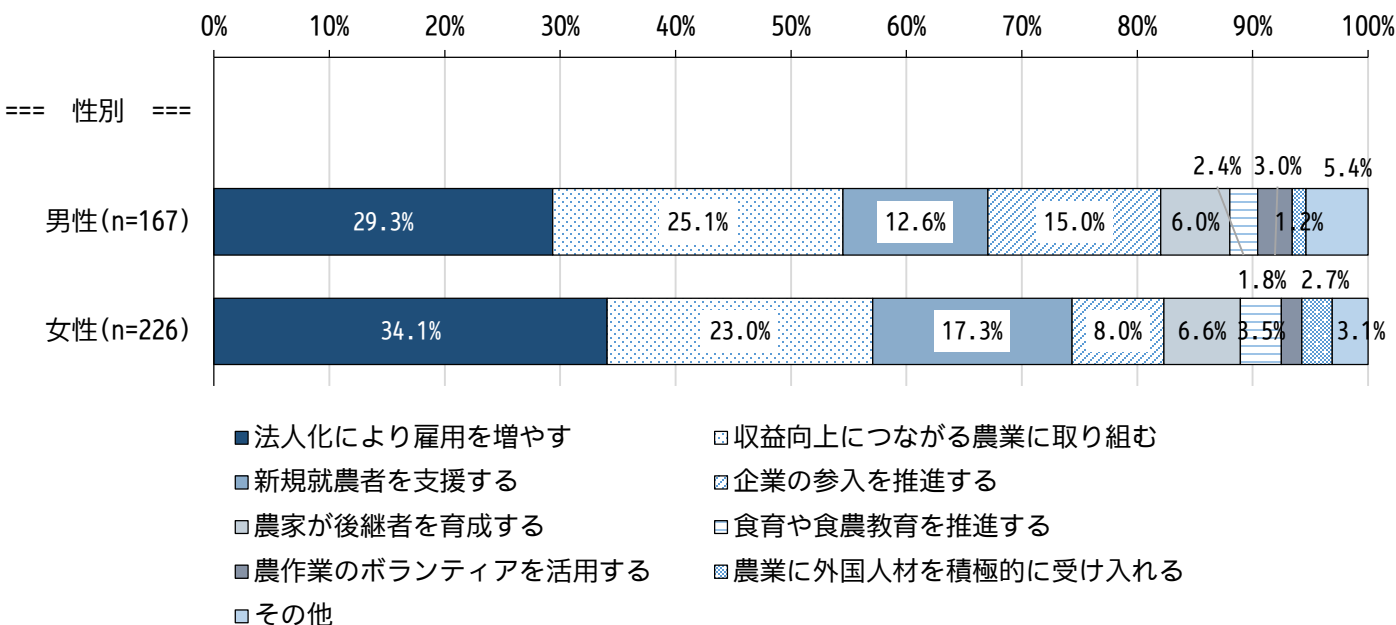
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・地球温暖化による農作物の被害と品種改良の必要性
- ・窒素循環、炭素循環、不耕起農法的重要性
- ・農業政策の先見性や無責任さ
- ・組織による制約が生産者と消費者の発展を妨げている。
- ・農業の法人化
- ・リン資源の確保
- ・食品ロスの問題についての議論の必要性

①日本の農業の課題として知っているものとして「農業従事者の減少・高齢化」が89.1%と最も高い。
②年代ごとの大きな差はみられない。
→農業従事者の減少・高齢化の課題意識が高く、共通の認識があり、施策に反映することが考えられる。

問16 日本の農業従事者は現在120万人ですが、今後20年間で30万人まで減少する可能性があるといわれています。農業の担い手や後継者確保の方法についてどの点が最も重要だと思いますか。
 (1つ選択) (回答者：394人)





※「その他」を選択した方の主な意見

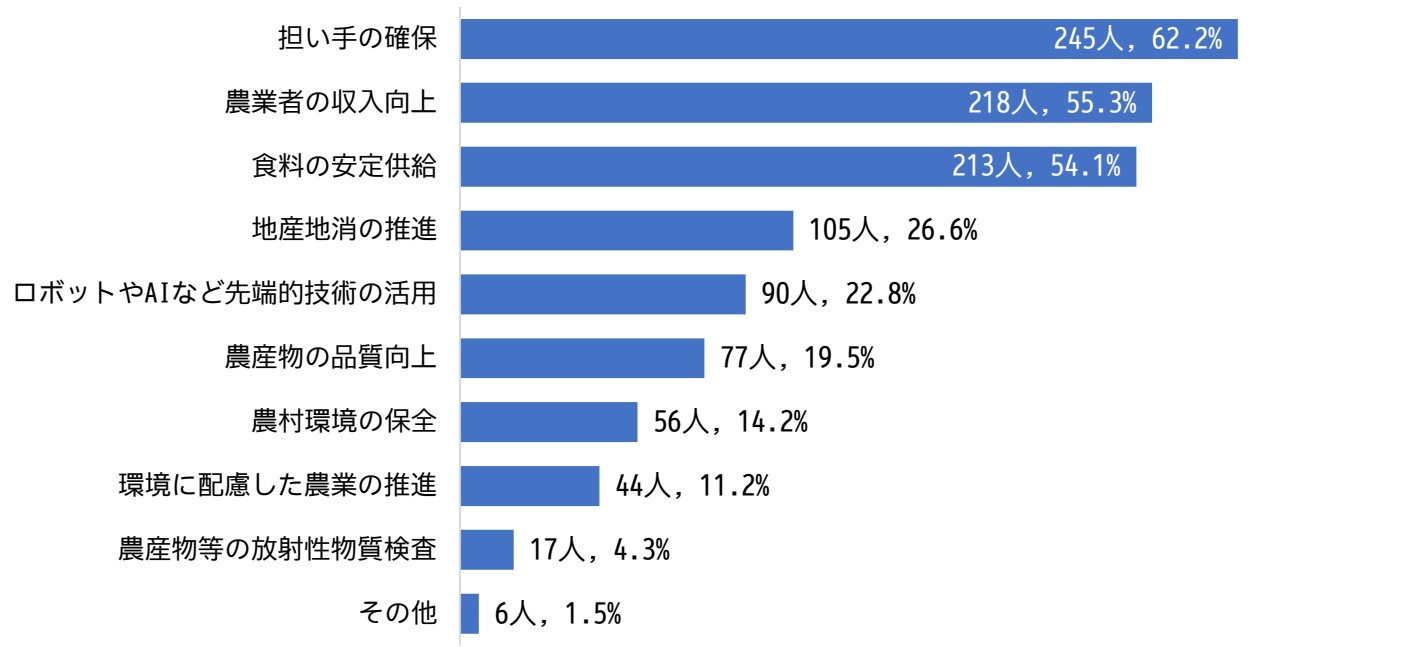
- ・個人負担の農業は先細りが見込まれ、法人化による効率化や天候不順、物価高騰に対する行政の支援が必要ではないか。
- ・消費者の生産者化が必要ではないか。
- ・高齢化や後継者不足の問題を考慮し、なぜ後継者がいないのか、それでも今作っている人はなぜ頑張っているのかを周知して欲しい。
- ・農業体験希望者とのマッチングサービスを増やしてはどうか。
- ・農業従事者の賃上げが必要ではないか。
- ・IT化やDX化を進めることで、農業の効率化を図るべき。

①農業の担い手や後継者の確保について、「法人化により雇用を増やす」が32.0%、「収益向上につながる農業に取り組む」が23.9%、「新規就農者を支援する」が15.2%の順に割合が高い。

②年代ごとの違いは大きくみられない。

→担い手の確保のためには、農業従事者の収益性を確保することが重要だと考えられている。一般に認識されている課題と実際に農業に従事している方等の課題についても把握していくことが必要と思われる。

問17 郡山市の農業政策について、以下のうちどの点が最も重要だと思いますか。（3つまで選択可）
（回答者：394人）



【年代別×郡山市の農業政策の重要度】

	担い手	収入向上	安定供給	地産地消	ロボットやAI	品質向上	環境保全	環境配慮	放射性検査	その他
10代	35.7%	42.9%	57.1%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%
20代	61.5%	30.8%	46.2%	15.4%	23.1%	30.8%	7.7%	30.8%	0.0%	0.0%
30代	74.4%	67.4%	51.2%	25.6%	20.9%	14.0%	14.0%	7.0%	2.3%	0.0%
40代	56.4%	52.1%	59.6%	22.3%	26.6%	17.0%	10.6%	5.3%	6.4%	2.1%
50代	67.3%	61.4%	53.5%	20.8%	23.8%	20.8%	20.8%	6.9%	2.0%	1.0%
60代	57.7%	48.7%	53.8%	38.5%	25.6%	19.2%	15.4%	19.2%	7.7%	2.6%
70代	68.6%	54.3%	42.9%	40.0%	11.4%	28.6%	11.4%	14.3%	5.7%	2.9%
80代以上	62.5%	68.8%	62.5%	25.0%	12.5%	18.8%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%

70%以上

60%以上

50%以上

※「その他」を選択した方の主な意見

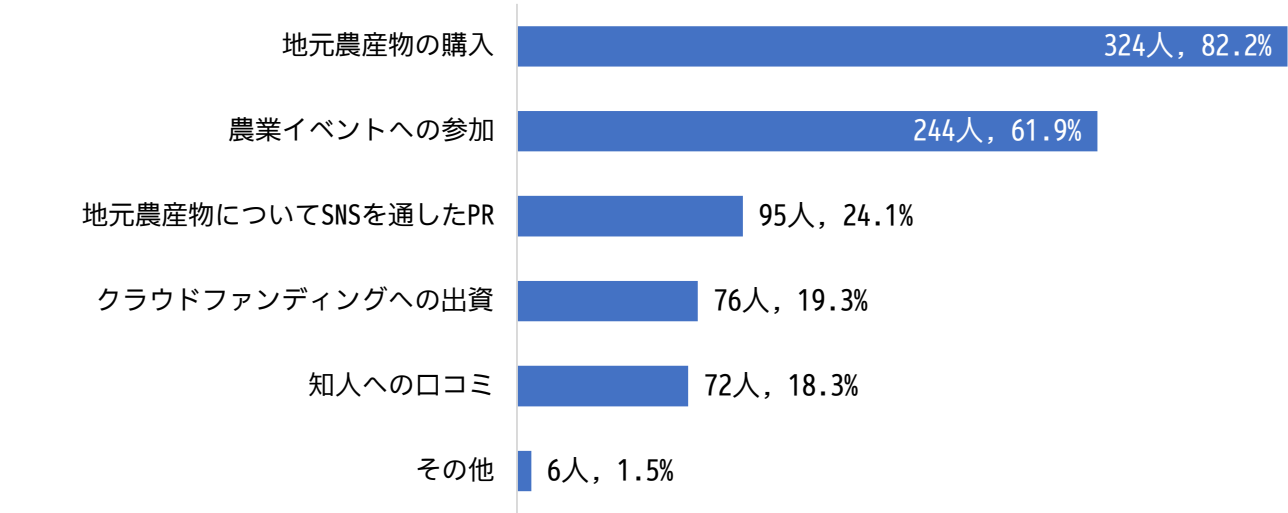
- ・郡山市産の農産物の周知
- ・生産物の宣伝、販売に販売のプロが取り組む。
- ・格好良さやオシャレな農業も大事だと思う。

①郡山市の農業政策について「担い手の確保」が62.2%、「農業者の収入向上」が55.3%、「食料の安定供給」が54.1%の順に割合が高い。

②年代ごとの違いは大きくみられない。

③「農産物等の放射性物質検査」は4.3%と割合は低い。

→郡山市の農業政策について、①の3点が重要だと考えられている。また、放射性物質検査については、相対的に重要度が低いという認識であった。



【年代別×農業振興に参加】

	地元農産物購入	農業イベント参加	SNSでPR	クラウドファンディング	口コミ	その他
10代	64.3%	42.9%	28.6%	14.3%	7.1%	0.0%
20代	53.8%	61.5%	15.4%	30.8%	30.8%	0.0%
30代	83.7%	62.8%	25.6%	16.3%	18.6%	0.0%
40代	74.5%	60.6%	28.7%	18.1%	16.0%	0.0%
50代	85.1%	59.4%	22.8%	14.9%	18.8%	2.0%
60代	91.0%	52.6%	24.4%	23.1%	21.8%	3.8%
70代	85.7%	57.1%	17.1%	28.6%	14.3%	2.9%
80代以上	93.8%	31.3%	18.8%	18.8%	18.8%	0.0%

70%以上

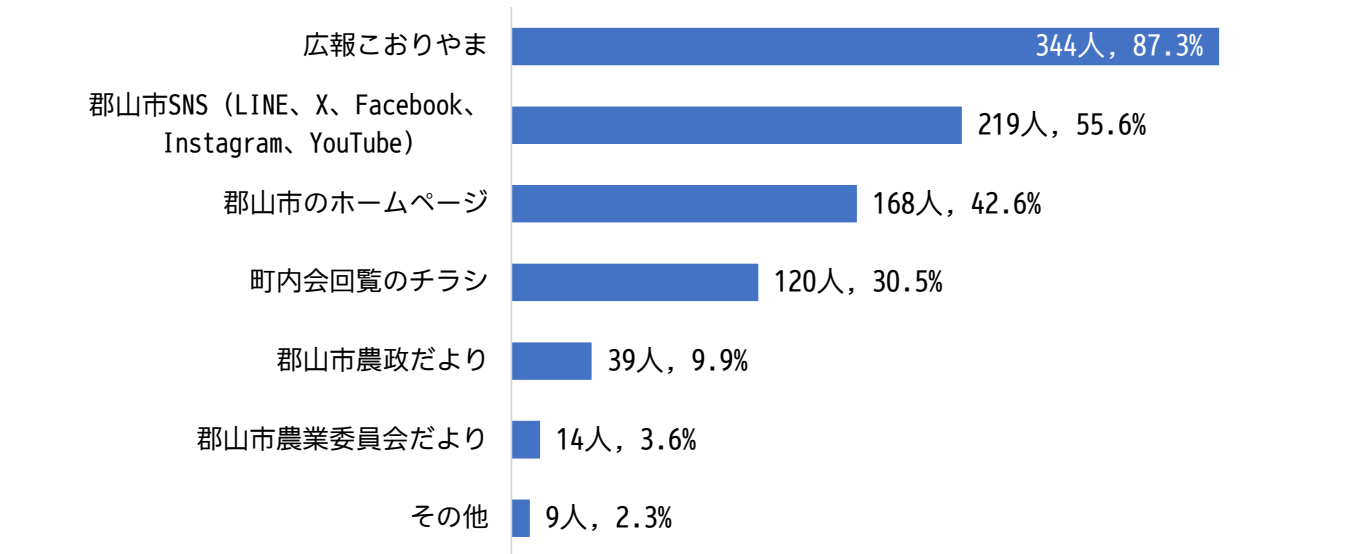
60%以上

50%以上

- ※「その他」を選択した方の主な意見
- ・法人化に向けた出資、投資
 - ・第一次産業をもっと重要視するような政治家を応援する。
 - ・他県へ取り組みや安全性の発信
 - ・参加したくない。
 - ・収穫だけの手伝いや、単発の手が足りないなどは周知すればやる人はいると思う。

①「地元農産物の購入」が82.2%、次いで「農業イベントへの参加」が61.9%と割合が高かった。
②SNSによるPR、クラウドファンディングへ出資、知人への口コミについては20%前後と同程度であった。
→②の3つは、本人が主体性を持って参加、実施する取組であることから、まずは、①のような地元の農業や農産物を「知る」機会が必要と判断されたのではないかと推測される。市民が当事者として農業振興に参加することを促す場合、まずは地元について知る取組を進めることが必要ではないかと考えられる。

問19 郡山市の農業政策の情報について、受け取りやすく親しみやすいお知らせの方法として、望ましいと思うものを選択してください。（3つまで選択可）（回答者：394人）



【年代別×周知方法】

	広報こおりやま	郡山市SNS	ホームページ	回覧板	農政だより	農業委員会だより	その他
10代	42.9%	42.9%	35.7%	28.6%	14.3%	7.1%	0.0%
20代	84.6%	61.5%	38.5%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%
30代	93.0%	72.1%	25.6%	30.2%	0.0%	0.0%	0.0%
40代	81.9%	62.8%	40.4%	31.9%	3.2%	2.1%	1.1%
50代	87.1%	60.4%	42.6%	21.8%	11.9%	3.0%	4.0%
60代	96.2%	51.3%	42.3%	37.2%	15.4%	3.8%	3.8%
70代	97.1%	31.4%	62.9%	34.3%	20.0%	5.7%	2.9%
80代以上	81.3%	18.8%	68.8%	56.3%	18.8%	12.5%	0.0%

■70%以上 ■60%以上 ■50%以上

- ※「その他」を選択した方の主な意見
- ・テレビ・ラジオ等の市政だよりで知らせる。
 - ・イベントを活用
 - ・まだまだTVの時代。先進的取り組みの農家のTV紹介。
 - ・市県外へ案内をしてくれる市民を募る。
 - ・TV局とタイアップし楽しいイベント開催。TVで周知してもらう。
 - ・小中高学校におけるカリキュラムへの組み込み
 - ・スーパーマーケットなどで品物が販売されている棚でのチラシ配布

①市のお知らせ方法として「広報こおりやま」が87.3%、「郡山市SNS」が55.6%、「郡山市ホームページ」が42.6%の順に割合が高かった。

②10代を除いて「広報こおりやま」の割合が高かった。

→「広報こおりやま」が市の情報収取手段としてはなお有効であり、今後もSNSやホームページを組み合わせたクロスメディア的周知方法が有効と考えられる。

※一部、生成AIを利用し内容を整理しています。
※10代、20代の方からの回答はありませんでした。

30代 回答者7名（全体43名、男性12名、女性31名）

- ・新規就農者の方をSNSで拝見しており農業への関心が高まっていると思っていた。
- ・なるべく地元農家の野菜を購入したい。
- ・子どもたちが地元の農業と関わる機会を増やしたい。
- ・ふれあい体験農園の機会を広げて、参加を呼びかけてはどうか。
- ・収入が安定すれば農業に従事したい人が増えるのではないかな。

- ・農家の減少予想に驚いている。
- ・米の価格が上昇しており、安定した供給に不安を感じている。
- ・農地はあるが農業を担えない状況で、土地を活用する方法を知りたい。
- ・地元の農業に対する関心を深めたいが、具体的な貢献ができていない。 など

40代 回答者21名（全体94名、男性29名、女性65名）

- ・農業従事者が収入を十分得られれば、従事者が増えると思う。
- ・美味しいブランド野菜を県内外に知ってもらいたい。
- ・2年前に新規就農者となり農地を購入した。遊農地を必要としている農業者が、簡易的に利用できるようにして欲しいし、情報が欲しい。
- ・初心者向けの家庭菜園講習会に参加してみたい。
- ・郡山市での都市型農業の可能性があり、農業を身近に感じられる取り組みをしてはどうか。ベランダ菜園への出張アドバイスや苗や肥料購入時のワンポイントアドバイスなど。
- ・地産地消を意識し、地元の農業を維持したい。
- ・学校に畑を設けると良い。他県出身で、自分たちで畑を管理し夏はきゅうり、秋はさつまいもを収穫していた記憶が鮮明で、今でも農業への関心が高い。
- ・以前借りた市民菜園が広すぎたので、もう少し狭い区画で借りれると嬉しい。

- ・収入が安定しないと就農する人が増えない。
- ・うねめ牛や他の特産品の認知度が低いと感じている。
- ・農業に関する広告やPRが不足していると感じている。
- ・収穫体験ができる場所が分からないという不安がある。 など

50代 回答者27名（全体101名、男性39名、女性62名）

- ・郡山ブランド野菜や鯉のPRが目に入り、実際に購入して美味しく食べている。
- ・子どもも参加しやすい農業イベントや購入機会が増加するとよい。
- ・家庭菜園の作り方教室や人手が足りない農家を手伝うマッチングサービスがあればよい。
- ・おはよう市場や花・野・果バレット市に農家の方が出店しやすいようにしてほしい。出店者が皆様高齢になってきていることが心配である。
- ・農業が好きでプランターで家庭菜園をしている。子供が小さい頃、農業体験に多数参加した。大人だけでも参加できる農業体験のコミュニティがあると良いのでは。
- ・若い世代の農産物への取り組みを支援してほしい。
- ・小学校での田植え体験や野菜作り体験を通じて、幼少期から食や農作物への関心を高める機会を増やしてはどうか。
- ・農福連携により障がい者が利用するA型事業所やB型事業所との連携を考えてみては。
- ・郡山ブランド野菜の全国的な発信を強化して欲しい。
- ・農業が身近に感じられるイベントを開催してほしい。
- ・郡山市の農業政策や現状についての情報が不足している。
- ・米の価格高騰や不足に対する不安がある。
- ・農業を辞める人が増えている。
- ・農業従事者の高齢化や担い手不足が進んでいる。
- ・収入の安定がないと就農をためらう人が多い。 など

60代 回答者31名（全体78名、男性36名、女性42名）

- ・家庭菜園のノウハウを教えるイベントに参加したい。
- ・第四次計画はページ数が多く内容の重複があるため、簡潔で具体的な施策が記載されていると、より活用できる資料になるのではないかと。
- ・山形県長井市のように、生ごみの堆肥化を進め、地域農業の資源としてはどうか。
- ・人が多く立ち寄る場所にボランティア募集やイベント情報を掲示してはどうか。
- ・米粉を使った料理教室に参加しとても良い企画だと思ったが、周囲の人は知らなかったため、企画を知らせる方法を考えて欲しい。
- ・市の施策と農業の実態を正しく理解し自分にできることをしたい。そのため農業政策にアクセスが容易で、どの世代にも分かり易いことを望む。
- ・小さい農家からも農業者の意見を政策に取り入れるべき。
- ・学生や一般の人が農業の手伝いやアルバイトを気軽にできるようになれば良い関係が築けるのでは。
- ・荒地の活用方法が分からないという不安がある。
- ・相続した土地から何も得られない立場の人への支援を求めている。
- ・地元産の野菜や果物が見つからないという不満がある。
- ・農産物の価格が労働に見合っていないと感じている。
- ・農業従事者の所得向上や生活の不安を取り除く必要がある。 など

70代 回答者14名（全体35名、男性26名、女性9名）

- ・耕作放棄地を借りやすくし、家庭菜園利用を促進する環境を整えてはどうか。
 - ・外国人が増え米の消費が増えていると思われるため、米生産者を増やす必要がある。
 - ・若者が安心して農業に関われるような支援が重要。
 - ・農業従事者の意見交換の場を設ける。
 - ・農業セミナーの定期開催してはどうか。
-
- ・米問題が深刻であり、解決策が求められている。
 - ・日本の食料自給率が低すぎる。
 - ・農業政策が不透明で、具体的な施策が見えない。
 - ・米価の高騰に対する対策が不十分である。
 - ・減反政策が米価高騰を招いている。 など

80代以上 回答者5名（全体16名、男性15名、女性1名）

- ・農業政策について市民に分かりやすく知らせる必要がある。
 - ・米作り農家を増やすことが重要。
 - ・広報こおりやまで郡山市の農業政策について分かり易く知らせる必要があるのでは。
 - ・後継者づくりにもっと力を入れてほしい。
-
- ・農家の後継者が高齢化しており、近い将来の廃業が心配
 - ・郡山市の農業政策についての情報が不足している。 など